キーワードは、

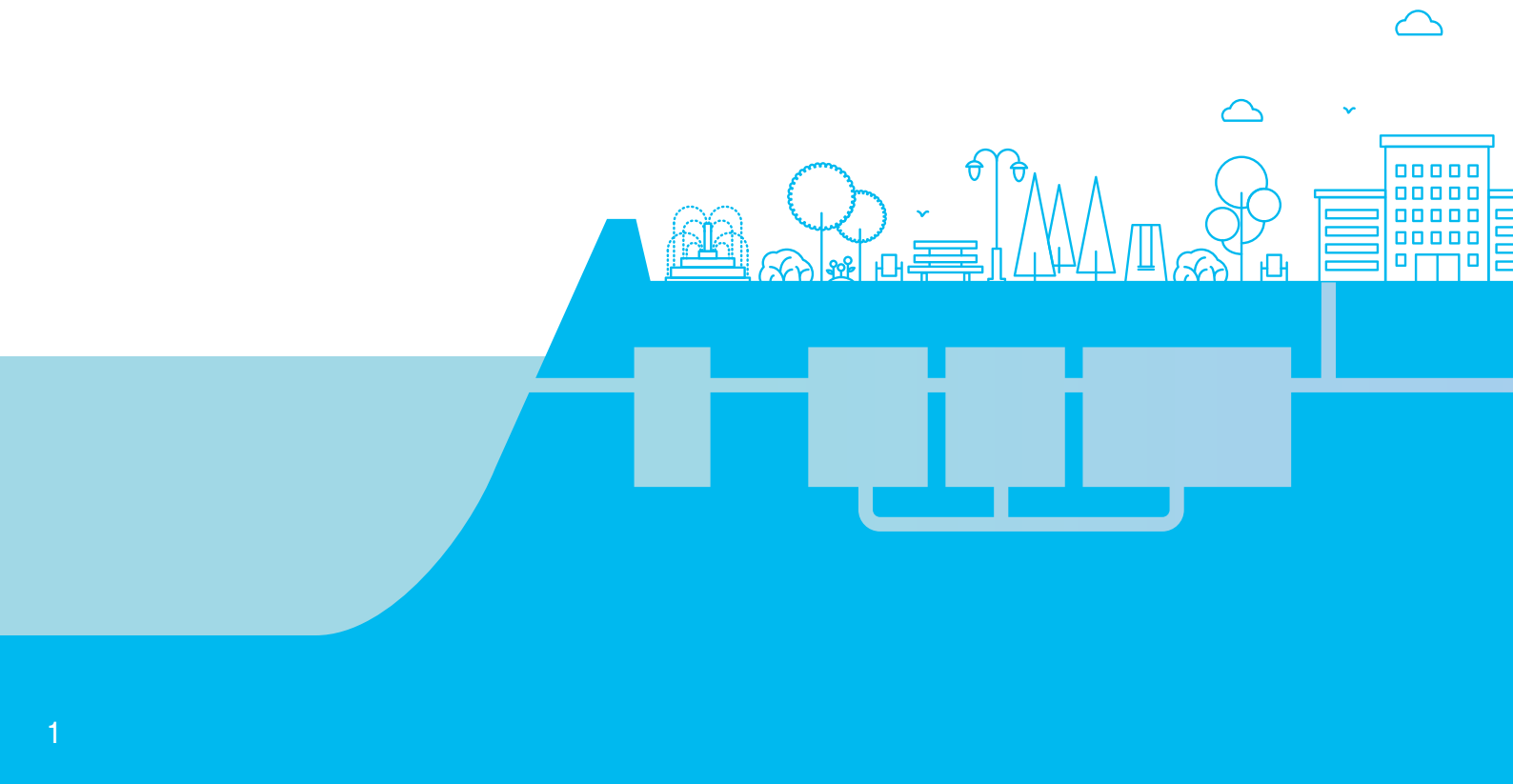
「尼の下水道を次の世代へ 」

本市は昭和初期から阪神工業地帯の中核として発展し、工業用水としての地下水の汲み上げによる地盤沈下によって、毎年のように台風による高潮の被害が繰り返されていました。

それらを解決するため、地盤沈下対策として工業用水道の建設に着手し、高潮対策として防潮堤を建設しました。さらに、内陸部に降る雨は公共下水道で対応することとし、浸水対策効果を早期に発揮させるため、合流式での下水道の整備を促進しました。

現在、老朽化した施設の更新をはじめ、気候変動に伴い頻発する大雨や大規模災害への備え、水需要の減少に伴う使用料収入の減少など、新たな課題が生じています。その課題を克服して、安定した水処理を次の世代へ引き継いでいくことが非常に重要であり、本ビジョンでは、「尼の下水道を次の世代へ」という基本理念のもと、100年後の将来像を見据えて、40年間の財政収支を見通し、直近10年間の計画として新たなビジョン「あまがさき下水道ビジョン 2031」を策定することとします。

新たなビジョンでは、災害時も含め下水道事業の安定的な運営を引き継いでいけるよう、利用者の皆様とともに考え、必要とする取組を選択し、集中して取り組んでいきます。そして事業者としての使命を果たして、「尼の下水道を次の世代へ」とつないでいきます。



私たちが目指す将来像は、このような下水道です 。

まちの くらしを支える

効率的かつ持続可能な下水道

ストックマネジメント手法とデジタル技術の活用により、省エネルギー化と下水道資源の有効活用による創エネルギー化が図れるとともに、効率的な施設管理によって、下水道施設の機能を最大限に発揮させる「効率的かつ持続可能な下水道」を目指します。

災害から 守り備える

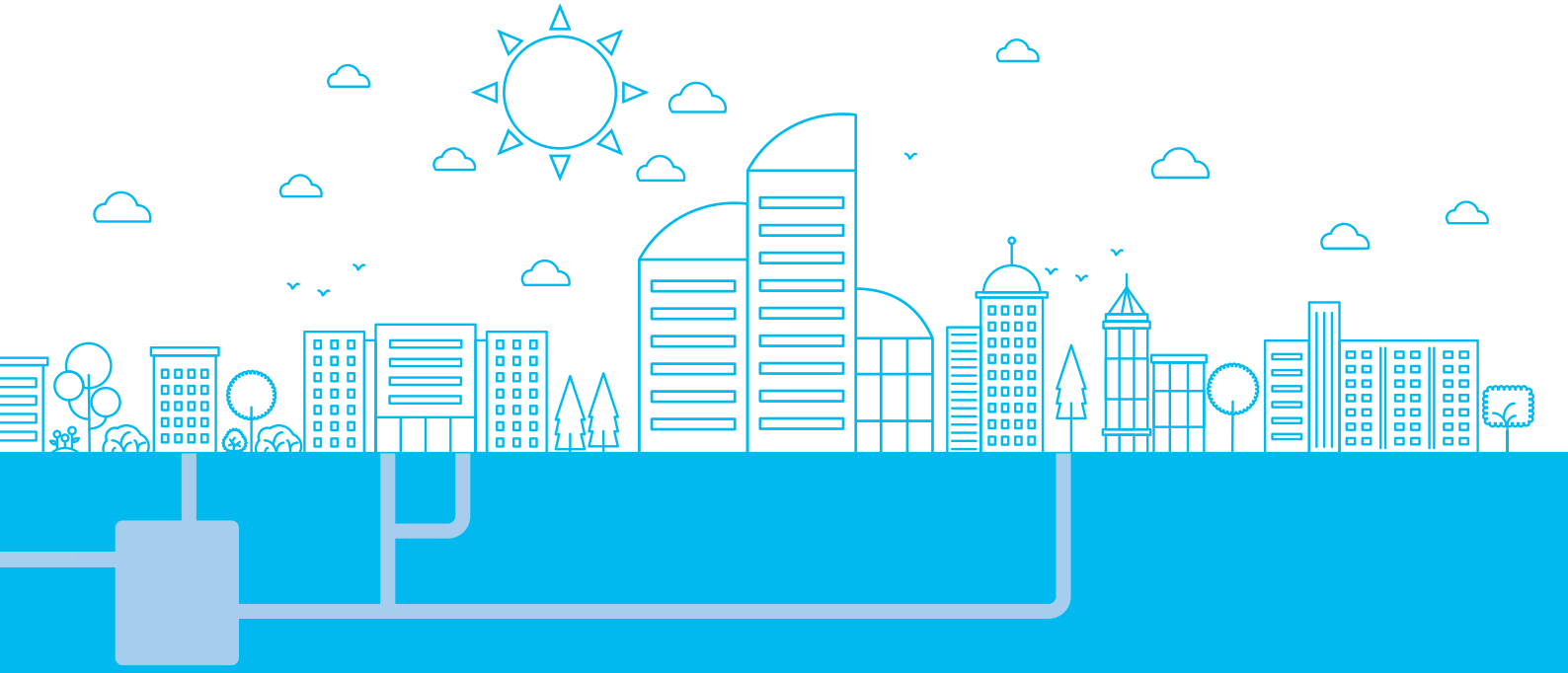
復元力の高い下水道

下水道施設の能力強化による被害の最小化を図り、災害発生前でのデジタル技術による災害リスク情報の発信を自助・共助につなげ、地域住民の相互協力による災害対応力を強化し、被災後は業務継続計画（BCP）により下水道機能の早期回復を図るといった「復元力の高い下水道」を目指します。

将来へ 事業をつなげる

経済的で安定的な下水道

都市活動や市民の生活を支える重要なライフラインとして、持続可能な事業運営の確保に向け、中長期的な視点に立った経営基盤の強化や事業を担う人材の育成による「経済的で安定的な下水道」を目指します。



目次と施策体系

目的・将来像	施　策	
まちのくらしを支える 効率的かつ持続可能な下水道	Ⅰ 施設の高度な維持管理	P 7
	Ⅱ 良好な水環境の形成	P19
	Ⅲ 環境負荷の低減	P21
災害から守り備える 復元力の高い下水道	Ⅳ 災害対応力の強化 Ⅳ-1（浸水から守る） Ⅳ-2（地震から守る） Ⅳ-3（災害に備える）	P31
将来へ事業をつなげる 経済的で安定的な下水道	Ⅴ 安定経営の継続	P53
	Ⅵ 持続可能な運営体制の構築 Ⅵ-1（官民連携でつなげる） Ⅵ-2（職員の育成でつなげる）	P59
	Ⅶ 市民理解の促進	P65

方　針　/　取　組

方針1　最小限の投資で最大限の効果を発揮させる高度な施設管理 P 9

取組
① ストックマネジメント手法を取り入れた施設の維持管理
② 施設の劣化予測精度の向上や故障の予兆検知による耐用年数の見直し
③ コンパクト化と統廃合検討を踏まえた施設の建替え

方針2　川や海の水質向上 P19

取組
④ 下水の高度処理や水質監視計器設置等による川や海への放流水質の向上

方針3　地球温暖化対策の加速化 P22

取組
⑤ 高効率機器の導入による省エネルギー化と下水道資源の有効利用による創エネルギー化

方針4　気候変動で増加する大雨や都市化による浸水被害の最小化 P33

取組
⑥ 雨水ポンプの能力増強や雨水貯留管の整備による施設能力の強化
⑦ 河川氾濫など浸水時のポンプ場・浄化センターの機能確保に向けた耐水化
⑧ ポンプ運転の効率化や浸水被害軽減につなげる下水の流入予測技術の確立
⑨ 民間事業者等による雨水貯留浸透施設の設置

方針5　地震発生時の下水道機能の確保 P43

取組
⑩ 地震の影響を最小化する建築構造物や土木構造物の機能確保
⑪ 防災拠点、災害対応病院、避難所など重要施設からの排水ルートの確保
⑫ マンホールトイレの設置、設営の推進など避難所等でのトイレ機能の確保

方針6　災害時の下水道機能の継続と早期回復 P49

取組
⑬ 業務継続計画（BCP）の充実

方針7　将来を見据えた経営による財政運営 P53

取組
⑭ ストックマネジメント手法による将来投資額の縮減と財源の確保

方針8　柔軟な組織体制の構築 P60

取組
⑮ 民間事業者等との連携を考慮した体制の構築

方針9　将来にわたり安定して事業運営できる職員の育成、確保 P61

取組
⑯ 資格取得支援の推進とデジタル化を推し進める人材の育成

方針10　市民の声に沿った情報発信と事業に対する理解の向上 P66

取組
⑰ 下水道の役割や災害に備える広報の充実と自助の促進

- 目標一覧 …… P69
- 計画の位置づけ …… P71
- ビジョン実現に向けて …… P73
- 尼崎市下水道事業のあゆみ …… P75
- 尼崎市公共下水道図 …… P77
- あまがさき下水道ビジョン 2031 策定経過 …… P79
- 用語の解説 …… P81

コラム

合流式下水道・分流式下水道の違い

本市では、下水道区域の約 90%において合流式を採用しています。

合流式

合流式は、雨水と汚水を同じ管路で流す方式です。

特　徴

・整備する管路が１本のため、分流式と比べて費用が安く済みます。

・浄化センターの処理能力を超える大雨の時には、汚水混じりの雨水が河川などへ放流されます。

分流式

分流式は、雨水と汚水を別々の管路で流す方式です。

特　徴

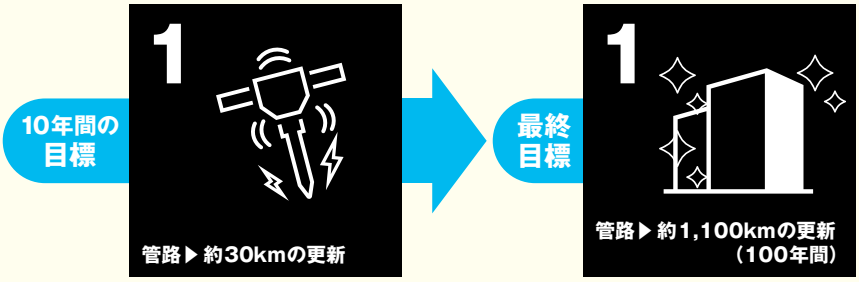
・雨水管と汚水管の２本の管路を整備するため、合流式と比べて地中に十分な空間が必要となり、費用が高くなります。

・汚水混じりの雨水が、河川などへ放流されることはありません。

取組目標表記の例示

10年間の取組目標

・ビジョン期間（10年間）中の取組目標を示したもの

最終目標

・最終的に目指すべき取組目標を示したもの